



## “Dr.ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

### No.34 (ヒューマンパフォーマンス②) 参考

#### 【トラブル事例】

現場パトロール時に、配管の流量計指示が正常でないことを発見した。点検の結果、配管に設置されているプレートオリフィスの取付方向が逆向きになっていたことが判明した。

これは、前回の定期分解点検の際、当該ラインの復旧時にプレートオリフィスの向きを誤って取付けたことが原因であり、作業員はプレートオリフィスに取付方向があることはわかっていたものの、作業要領書に具体的な記載はなかったため、うっかり逆向きに取付けてしまったものと推定される。

#### 【ヒューマンパフォーマンスツールの活用】

このようなケースを防ぐには、別の人による確認・検証を行うことがエラー検知に有効です。

ツール名: “**検証の実施(同時並列検証 CV／独立検証 IV)**”

\* CV: Concurrent Verification, IV: Independent Verification の略

#### ➤ 何のため？

- どんなに優秀な人であってもミスをする。検証者が実施者の行為とその結果を確認・検証することでエラーを検知し、トラブルを未然に防止する。
- 設備等の正しい構成や状態を確認することに主眼を置くことで、実施者がミスをしていても検証者がその間違いに気づくことができる。

#### ➤ いつ使う？

- リスク重要度の高い設備の操作、作業時
- CV: 一旦実施すると後からは確認できないなど、後戻りができない作業のとき
- IV: 機器の状態変更や、保守後に機器を供用状態に復旧させるとき

#### ➤ どう使う？

- 手順書・要領書に基づき、取るべき行動や達成すべき状態を相互に確認し、合意する。
- 複数人でそれぞれが影響を受けないよう配慮しながら、設備等の正しい構成や状態をセルフチェックにより確認する。他人任せや他者の確認結果を鵜呑みにしてはいけない。
- CV: 同時に同じ場所で、IV: 時間も場所も別々に、確認・証明(記録)する。
- できるだけ多くの利用可能な計器指示や表示等を活用する。
- 誤りや異常を検知した場合は、人間関係に拘わらず、ためらわず注意する。
- 対応に迷ったときは、ためらわず作業を中断し、報告する。

**リスク重要度の高い作業を実施する場合は、自らの行為を過信せず、作業チームによる確認・検証によりエラーを検知し、トラブルを防止しましょう！**

※ ヒューマンパフォーマンスツールは、起こりうるエラーを予測し、感知することで、エラーや事故を防止しやすくするためのものです。  
このポスターは、事例を参考に安全啓発資料として編集・作成しました。